

# 日本で唯一の 医科大学附属高校！ 高大連携教育で 9割以上が医学部へ

日本で唯一の医科大学附属の高校である川崎医科大学附属高等学校。開校当初より少人数・全寮制とし、医師になるための準備教育を高校段階から積み上げている。毎年卒業生の9割以上を医学部に進学させている教育システムについて、竹田義宣校長に伺った。

**医学部合格のためでなく  
医師になるための教育を**

川崎医科大学附属高等学校は、一九七〇年、川崎医科大学の開学と同時に設置された。医科大学との同



たけだ よしのぶ 先生  
校長 竹田 義宣

時発足という点に大きな意味がある。「医科大学をつくっても、3年間受験勉強だけをやってきた人ばかりが入学する可能性が高い。であれば、医師になるために必要な人間教育を行う附属高校を大学と同時につくらなければならぬ。川崎学園創設者の川崎祐宣はこう考えたのです」と竹田義宣校長は説明する。

このような創設者の熱い思いにより、9年間一貫で医師を育てる教育体制が整えられた。開校当初から少人数・全寮制教育としたのは、寮生活を通して規則正しい生活を送り、学習習慣を確立することで、「良医」

になるための学力と人間性・体力の均整のとれた成長をめざしたからだ。

学力を伸ばす工夫は随所に見られる。50分授業を平日7コマ、土曜4コマと、授業時間はしっかり確保。そのうえで、理科は物理、化学、生物の3科目を全員が学ぶカリキュラムとした。また数学、英語は習熟度別授業を導入し、きめ細やかな指導を行っている。

「夜間学習では毎日3時間自習を行います。学習室には教員が交代で常駐しており、質問に答えたり、必要に応じて少人数での補習を実施したりしながら、学習習慣の確立を促す仕組みにしています」（竹田校長）

寮生活を通して、共感性や思いやり、協調性、コミュニケーション能力など、医師に求められる人間性もしっかり育成している。

**良医を育てる授業  
「ドクターロード」**

良医を育てるための特別な教育プログラムは「ドクターロード」と呼ばれる。医師への道を歩み続けるには、そもそもなぜ自分は医師になりたいのか、自分はどうのように医学や医療に関わっていきたくのかをしっかりと考えることが重要で、それには本物に触れる体験が不可欠だ。

そのため、「ドクターロード」は、川崎医科大学附属病院・総合医療セ



ゼブラフィッシュの解剖（医科大学体験実習）。

ンターの医師に行う「医師へのインタビュー」、医学部の研究活動の一端に触れる「医科大学体験実習」、グループごとに興味のあるテーマを追求する「テーマスタディ」など、本物に触れる体験をベースにした授業で構成されている。全員が医師をめざしているだけあって、どの生徒も意欲的に取り組んでいるという。

「このような教育は、本校でしかできないものだと思っています。9割以上の生徒が川崎医科大学に進学している現実を踏まえ、担当する医師や医科大学の先生も後進を育てる意識で指導いただいています」（竹田校長）

医学部入試突破のため、多くの高校生は受験を意識した勉強をせざるを得ない。だが、同校の生徒は、医科大学との密接な高大連携により、医師になるための準備にも十分な時間を割くことができる。医師への道の有効な選択肢のひとつに違いない。

**卒業生に  
聞く！**

## 医師との触れ合いが意識を高めてくれた

川崎医科大学附属高等学校を卒業し、推薦入試を経て川崎医科大学に進学した卒業生は、高校生活や高大連携教育についてどのような感想を抱いているのだろうか。医学部3年次に在籍している堀江海奏さんに当時間を振り返ってもらった。

**大学の学びとつながる  
「ドクターロード」**

どうして川崎医科大学附属高等学校に入学しようと思ったのですか。

堀江 2歳上の姉が通っており、医学部をめざすなら絶対に入学したほうがいいと勧められたからです。ただ、その時点ではぼんやりと医師になりたいと考えていただけでした。

入学後にその気持ちは変化していきませんか。

ドがあれば教えてください。

堀江 1年生のときの「医師へのインタビュー」です。患者として診てもらった場合を除き、医師と話す機会が初めてだったため、やや緊張していました。担当してくださったのは麻酔科の女性医師の先生でした。先生からいろいろと話題を向けてくださり、質問しやすい雰囲気をつくっていただきました。とはいえ、非常に忙しそうなお様子で、緊急呼び出しを受けてインタビュー途中で退出されたほどでした。しかし、こうしてバリバリ働く女性医師の姿を目の当たりにして、私も将来医療の現場で活躍できる臨床医になりたいと、強く決意したことを覚えています。

ほかに「ドクターロード」の授

業で覚えていることはありますか。

堀江 「医科大学体験実習」では、3人のグループで微生物学教室を訪問し、インフルエンザウイルスの実物を光学顕微鏡で観察したり、研究内容について詳しい説明を受けたりしたことを、レポートにまとめました。研究内容を完全に理解したわけではありませんが、普段学んでいる生物の授業が最先端の医学研究につながっていることが実感でき、感動したことが思い出されます。実は、大学でも2年次の「医学研究の扉」という実習授業で研究室に配属されるのですが、そこでも微生物学教室を選択しました。実習内容は異なりますが、研究の流れは高校で体験したときと同じで、高校と大学の連続性を強く感じることができました。

医科大学の附属高校に通うメリットをどのように感じていますか。

堀江 高校3年間で、多くの医師に触れ合う機会が豊富なおことに尽きると思います。様々な医師の姿、医学・医療の世界について知ることで、自分のモチベーションを高く保ち続けることができました。

**学校見学会**  
(令和5年度入試出願資格者  
およびその保護者対象)

日時… 11月26日(土)  
12月3日(土)  
10:30~12:30

場所… 川崎医科大学  
附属高等学校  
(岡山県倉敷市)

内容… ①高校説明  
②校舎棟・寮見学  
③個別懇談  
④入試対策ミニセミナー



堀江 3年間で通じて「ドクターロード」の授業があり、現役の医師と接する機会が数多く用意されていました。その回数を重ねるごとに、自分がめざすべき医師という職業の輪郭がはっきりとしていきました。



ほり えみ な さん  
堀江 海奏

印象に残っているエピソード

